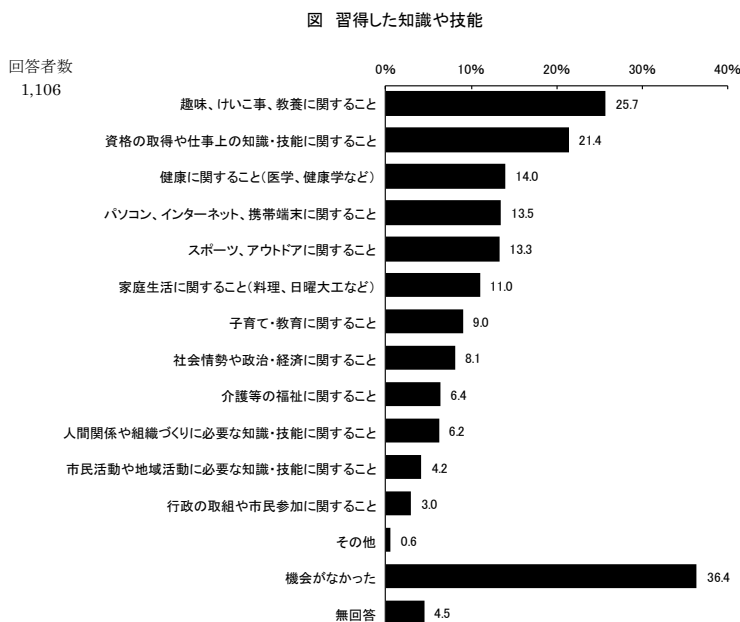


町田市生涯学習に関する市民意識調査報告書（抜粋）

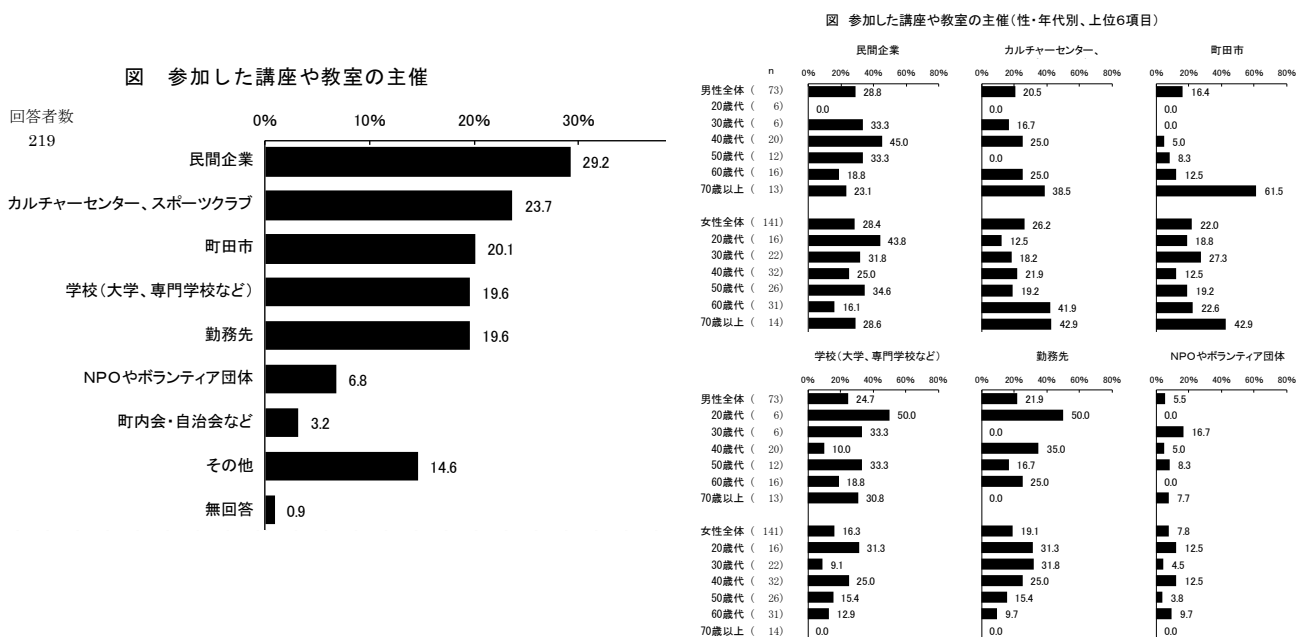
市民の学習活動の現状について

◆あなたは、この1年間に、次に挙げる知識や技能を習得する機会がありましたか。（〇はいくつでも）



この1年間に習得した知識や技能については、「趣味、けいこ事、教養に関すること」(25.7%)、「資格の取得や仕事上の知識・技能に関すること」(21.4%)が多くなっている。一方、「機会がなかった」(36.4%)は3割台半ばを超え最も多くなっている。

◆あなたが参加した講座や教室は、どこが主催するものですか。（〇はいくつでも）

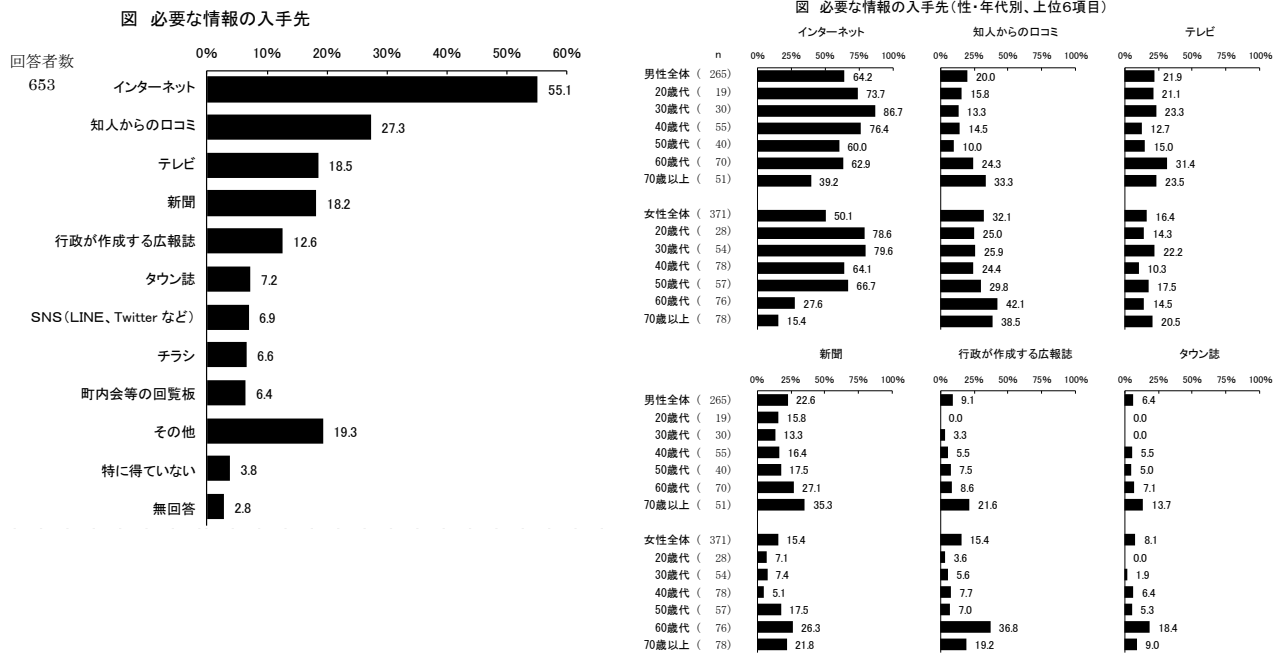


参加した講座や教室の主催については、「民間企業」(29.2%)、「カルチャーセンター、スポーツクラブ」(23.7%)、「町田市」(20.1%)の順に多くなっている。

年代ごとの基数が少なく参考とはなるが、高齢層は「町田市」、若年層は「民間企業」、「カルチャーセンター、スポーツクラブ」、「学校」、「勤務先」が行う講座等の参加が多い。

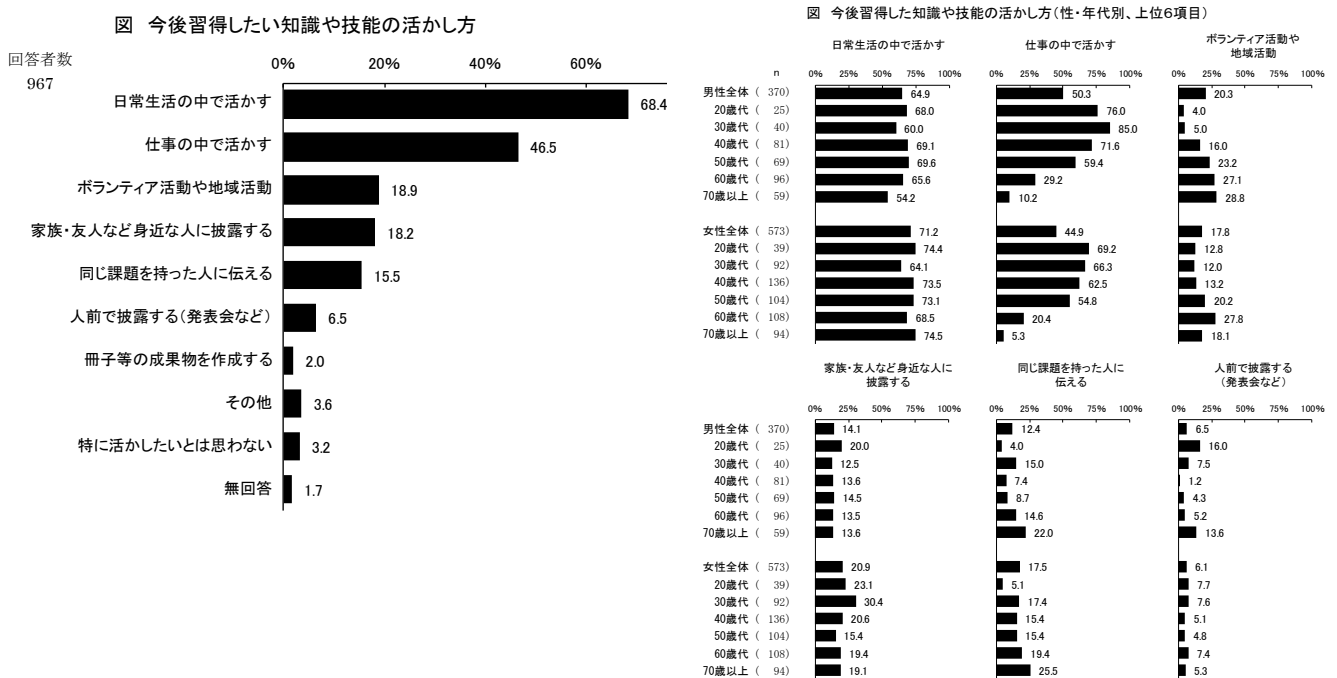
◆あなたが、それらの知識や技能を身につけるうえで、必要な情報はどのように得ましたか。

(〇はいくつでも)



知識や技術を身につけるうえでの必要な情報の入手先については、60代及び70代の女性を除き、「インターネット」が最も多い。「知人からの口コミ」や「テレビ」は全年代を通じて多い一方、「SNS」は若年層、「行政が作成する広報誌」は高齢層の割合が他世代に比べて高い状況にある。

◆あなたは、それらの知識や技能をどのように活かしたいと考えますか。(〇はいくつでも)



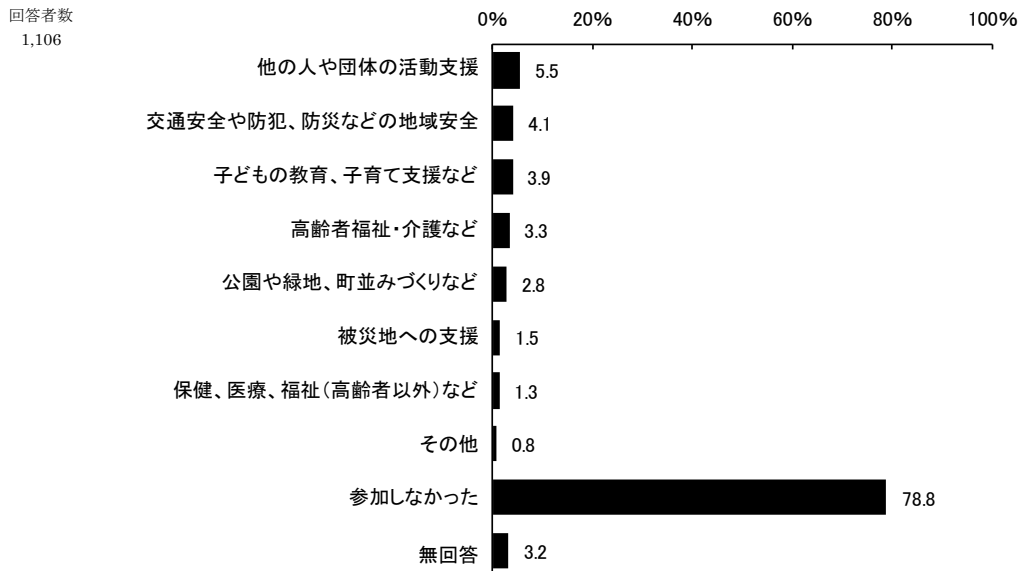
習得した知識や技能の活かし方については、「日常生活の中で」(68.4%)、「仕事の中で」(46.6%)に次いで、「ボランティア活動や地域活動で」(18.9%)が多い。「日常生活の中で」は年代によって大きな差はないが、「仕事の中で」は若年層、「ボランティア活動や地域活動で」は高齢層の割合が高い。

地域活動・市民活動について

◆あなたはこの1年間に、次のボランティアやNPOなどの市民活動に参加されましたか。

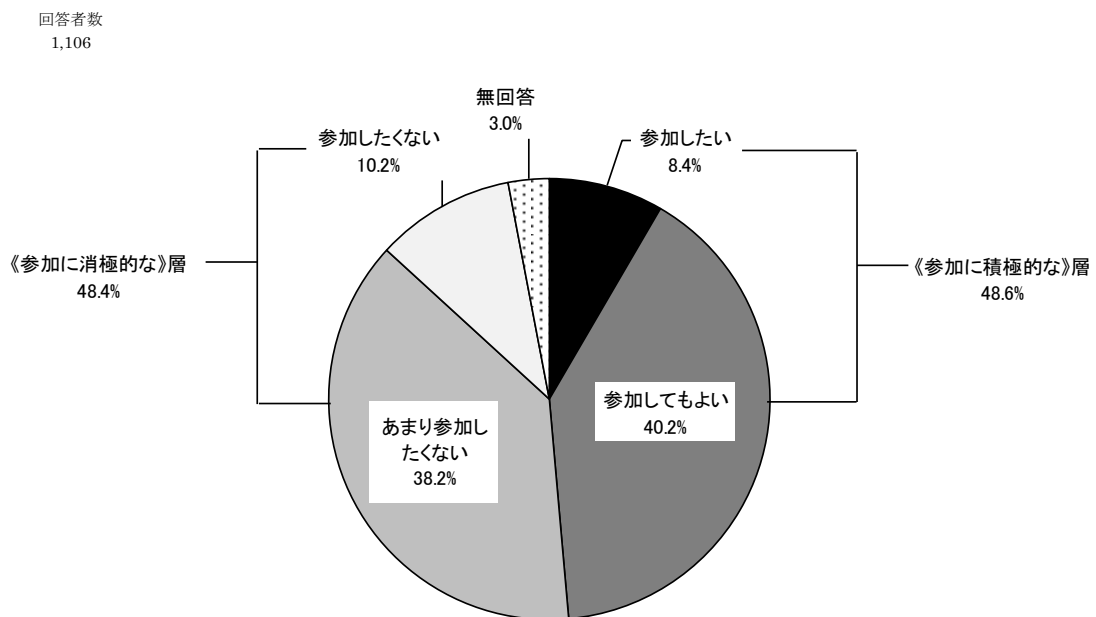
(〇はいくつでも)

図 ボランティアやNPOなどの市民活動への参加



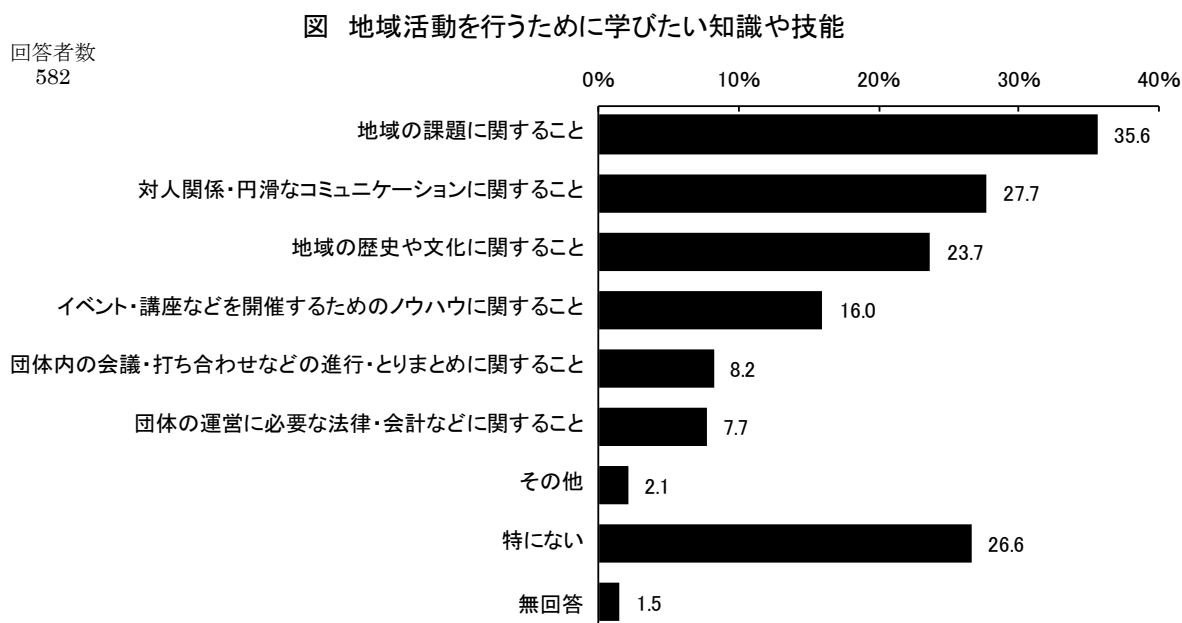
◆あなたは今後、市民活動に参加したいと思いますか。

図 市民活動への参加意欲

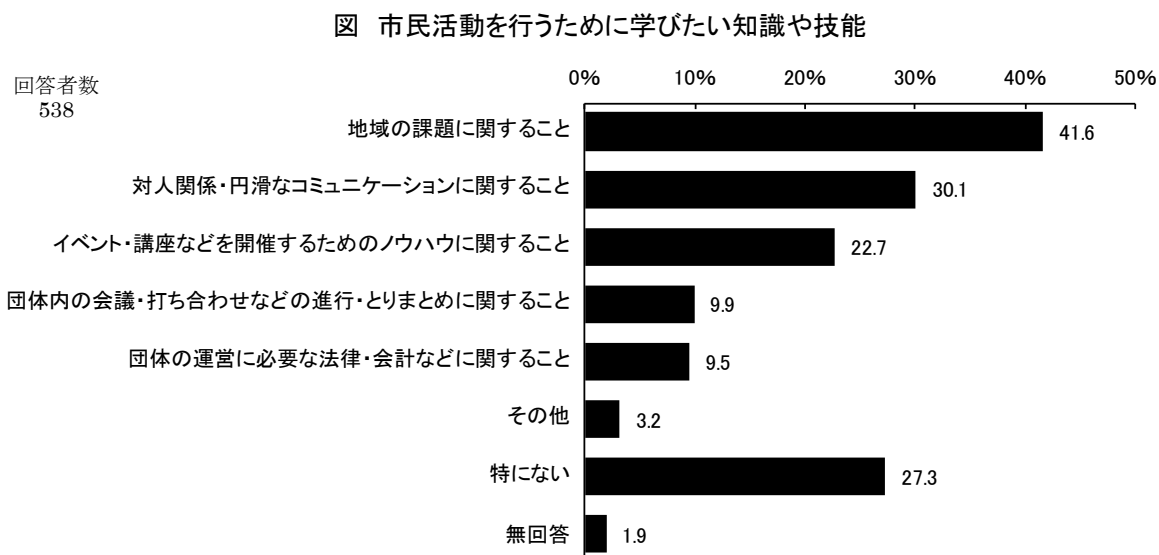


この1年間に、市民活動に参加した人の割合は20%に満たなかったが、今後「参加したい」もしくは「参加してもよい」と思う人の割合は48.6%であった。

◆あなたは、地域での活動（町内会や自治会・子ども会・老人クラブ等）を行うにあたり、学びたい知識や技能はありますか。（〇はいくつでも）



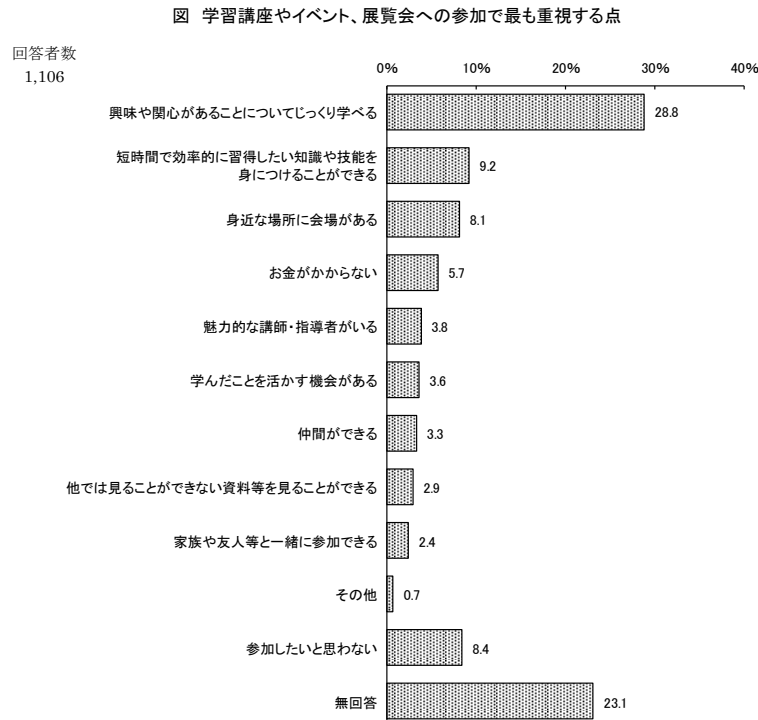
◆あなたは、市民活動（ボランティアやNPOなど）を行うにあたり、学びたい知識や技能はありますか。（〇はいくつでも）



地域活動、市民活動を行うために学びたい知識や技能は、「地域の課題に関すること」、「特にない」、「対人関係・コミュニケーションに関すること」が多く、地域活動では、「地域の歴史や文化に関すること」(23.7%)、市民活動では、「イベント・講座などを開催するためのノウハウに関すること」(22.7%) も多い。

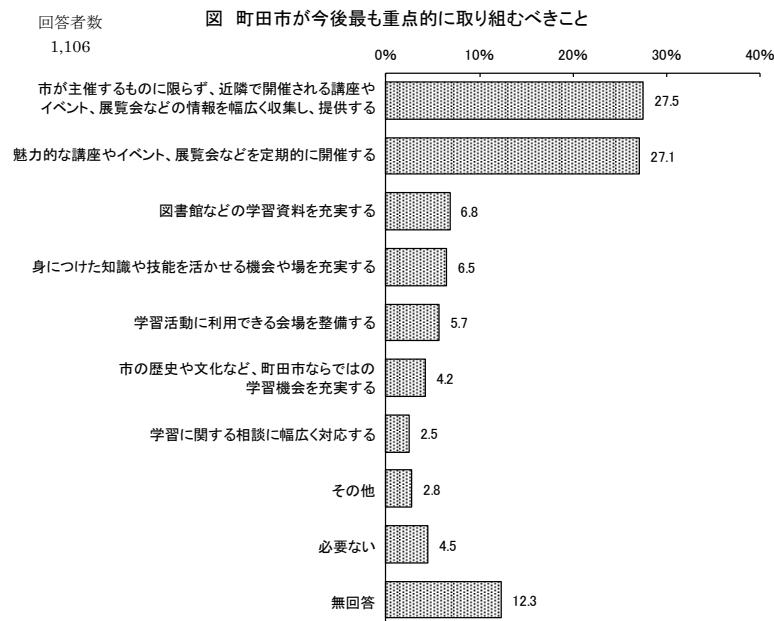
町田市の取組について

◆あなたは、学習講座やイベント、展覧会などに参加する際、最も重視するのはどのような点ですか。



学習講座やイベント、展覧会等の参加で重視する点については、「興味や関心があることについてじっくり学べる」(28.8%)が最も多く、次いで「短時間で効率的に習得したい知識や技能を身につけることができる」(9.2%)、「身近な場所に会場がある」(8.1%)が多い。

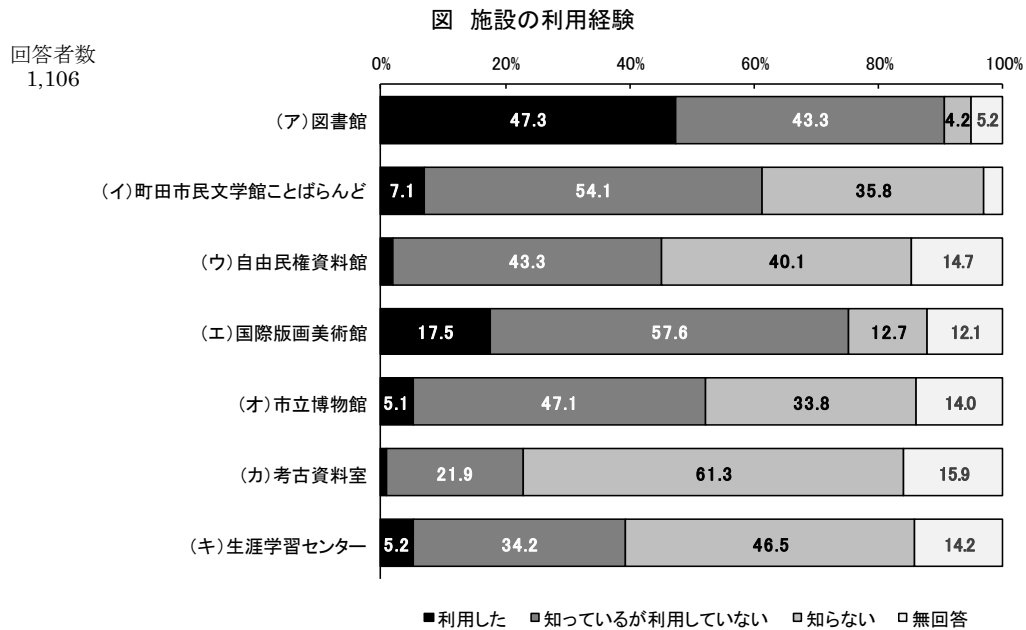
◆市民の学習活動がさらに充実するために、町田市が今後、最も重点的に取り組むべきことは何だと考えますか。



町田市が今後最も重点的に取り組むべきことについては、「講座やイベント、展覧会などの情報を幅広く収集し、提供する」(27.5%)が最も多く、次いで「魅力的な講座やイベント、展覧会などを定期的開催する」(27.1%)が多くなっている。その他の項目については10%未満となっている。

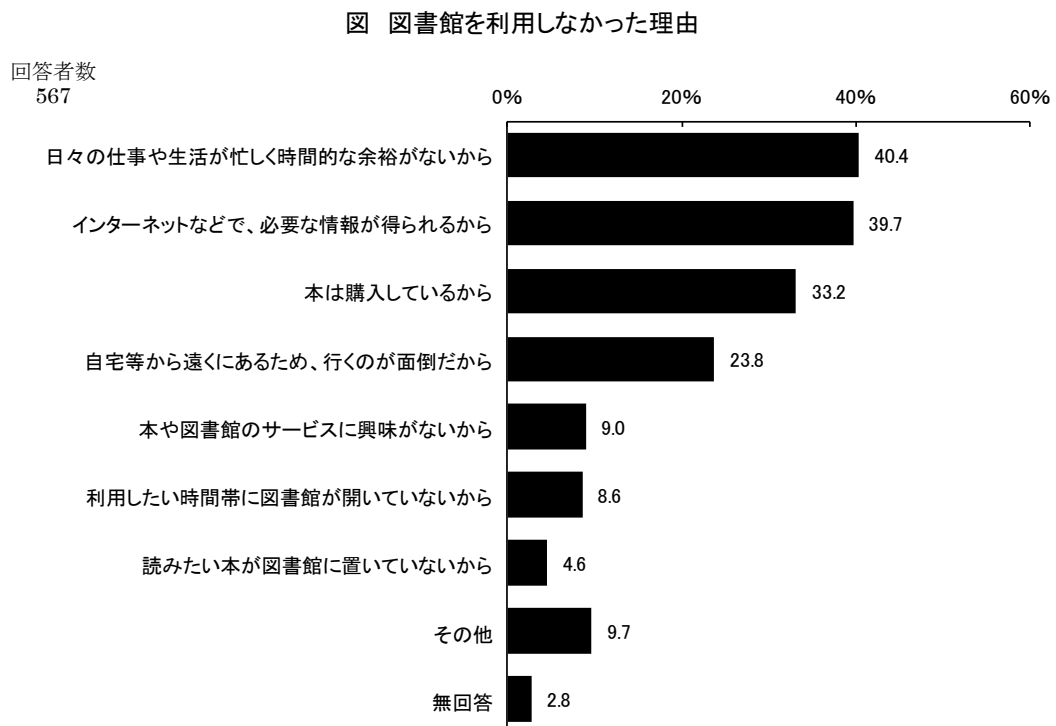
図書館について

◆あなたはこの1年間に、町田市内にある次の施設を利用しましたか。



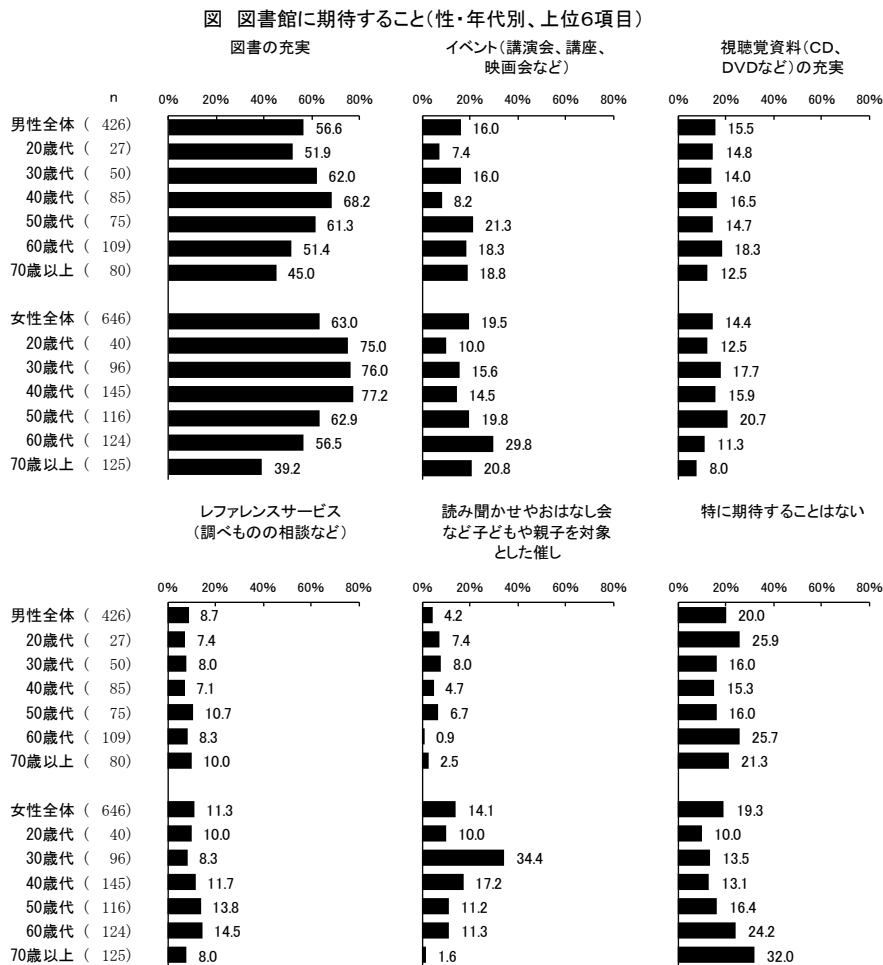
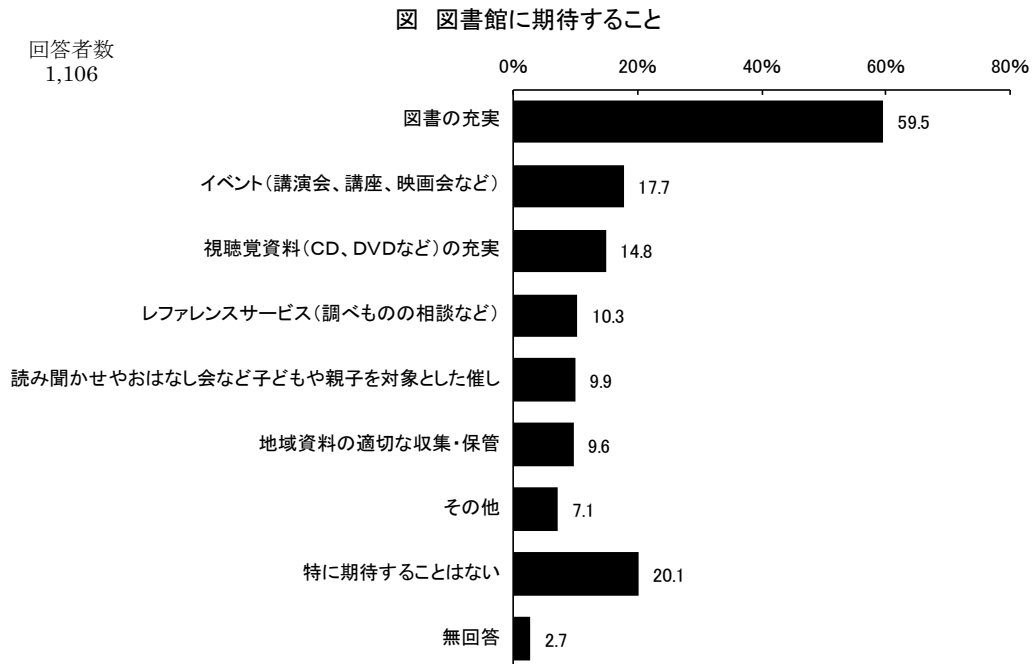
この1年間に図書館を利用したことがある市民は47.3%で、前回調査(38.0%)から増加している。

◆なぜ、図書館を利用されなかったのですか。(〇はいくつでも)



図書館を利用しなかった理由については、「日々の仕事や生活が忙しく時間的な余裕がないから」(40.4%)、「インターネットなどで、必要な情報が得られるから」(39.7%)が多くなっている。

◆あなたが、図書館に期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

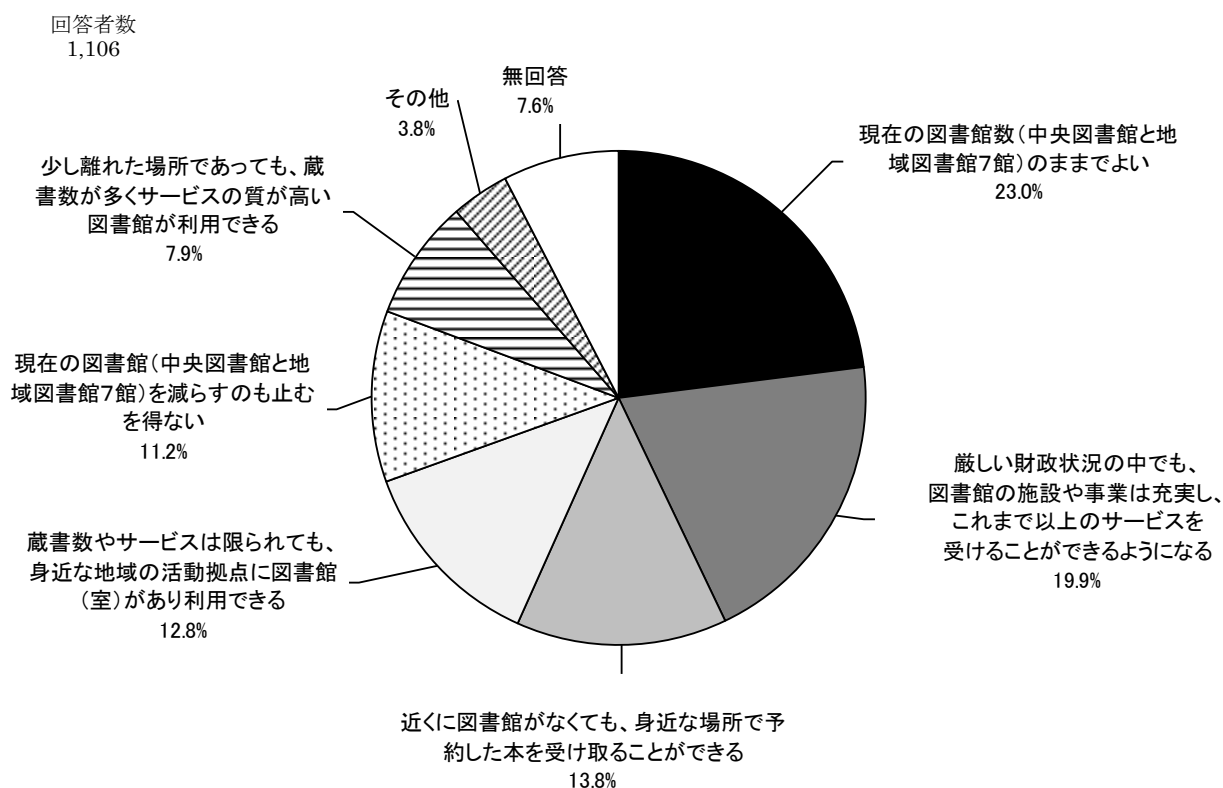


図書館に期待することについては、「図書の充実」(59.5%)が最も多い。

読み聞かせ等の親子向けの催しについては、全体では9.9%にとどまるが、30代女性に限ると34.4%と高い。

◆今後、町田市が図書館の見直しを進める上で、あなたが最も重要と考えることは何ですか。

図 図書館の見直しで最も重要と考えること



図書館の見直しで重要と考えることについては、図書館数等の現状維持(23.0%)と図書サービスの充実(19.9%)の合計が40%を超えており、それ以外の選択肢を選んだ人の割合は約50%であった。

性・年齢別に見ると、30代男性では「少し離れた場所であっても、蔵書数が多くサービスの質が高い図書館が利用できる」が、30代女性では「近くに図書館がなくても、身近な場所で予約した本を受け取ることができる」が最も多く、他の世代では、図書館数等の現状維持又は図書サービスの充実が多くなっている。

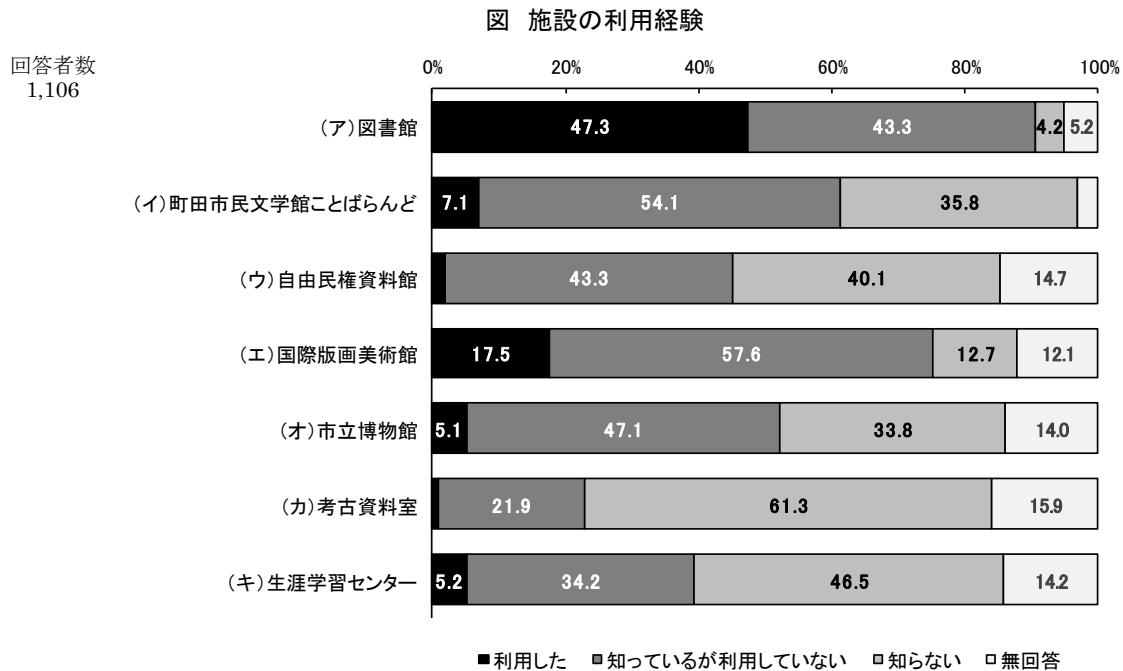
居住地域別では、回答の傾向に大きな差異は見られない。居住地域ごとの基数が少なく参考とはなるが、小山地区では「近くに図書館がなくても、身近な場所で予約した本を受け取ることができる」が最も多く、次いで「現在の図書館(中央図書館と地域図書館7館)を減らすのも止むを得ない」が多い。

この1年間で図書館を利用したことがある人について見ると、図書館数等の現状維持と図書サービスの充実の合計が50%を超えている。

その他(自由記述)では、学習スペースの拡大や駐車場の確保、移動図書館の充実など図書館サービスの充実に関する意見が見られた。

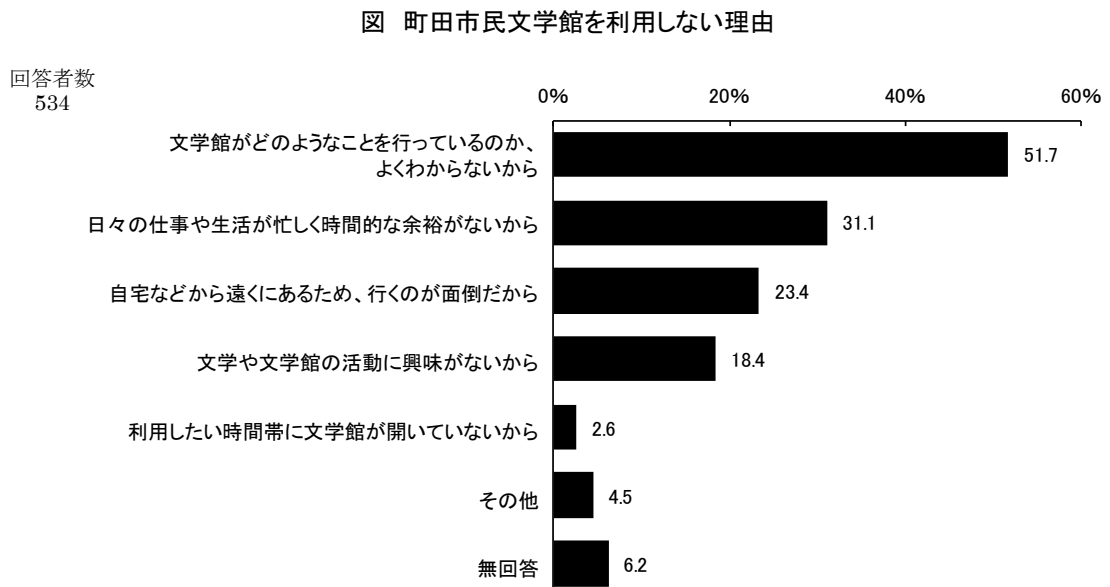
市民文学館について

◆あなたはこの1年間に、町田市内にある次の施設を利用しましたか。【再掲】



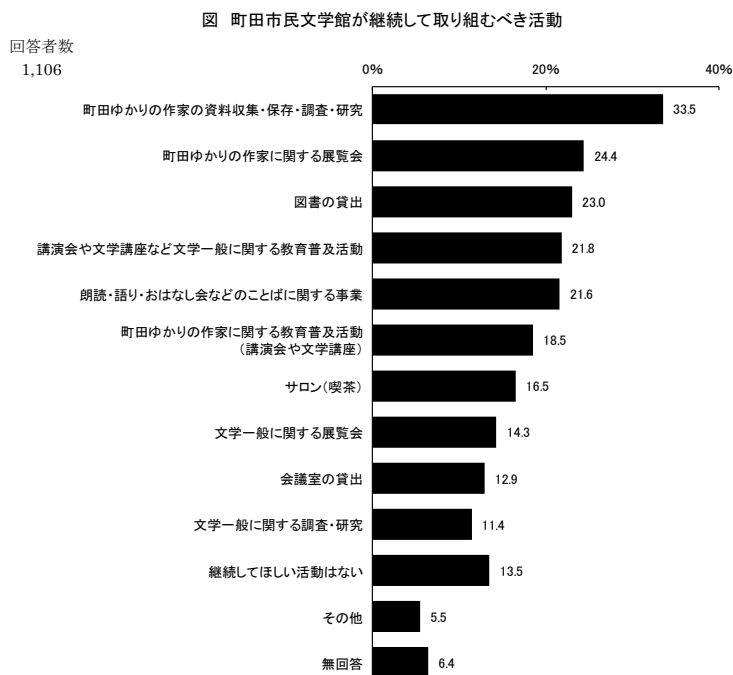
前回調査と比較して、市民文学館を知っている人の割合（42.5%→61.2%）、この1年間で利用した人の割合（6.8%→7.1%）とも増加している。

◆なぜ、文学館を利用されないのですか。（〇はいくつでも）



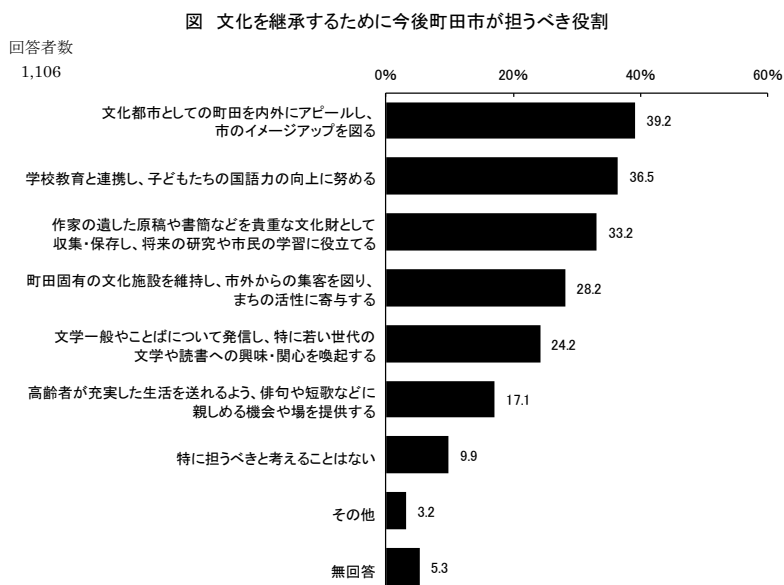
市民文学館を利用しない理由については、「どのようなことを行っているのか、よくわからないから」（51.7%）が最も多く、次いで、「時間的な余裕がないから」（31.1%）、「自宅などから遠くにあるため、行くのが面倒だから」（23.4%）が多い。

◆町田市民文学館では、次のような活動を行っています。これらの中で、今後も文学館が継続して取り組んだ方がよいと思う活動は何ですか。(〇はいくつでも)



市民文学館が継続して取り組むべき活動については、「町田ゆかりの作家の資料収集・保存・調査・研究」(33.5%)が最も多く、次いで「町田ゆかりの作家に関する展覧会」(24.4%)、「図書の貸出」(23.0%)が多くなっている。一方、「継続してほしい活動はない」(13.5%)と回答した人は1割台半ば近くとなっている。

◆町田市には、過去から現在に至るまで多くの著名な文学者が来住し、作品の中で町田を描いてきたという文化的特徴があります。このような文化を継承するために、あなたが今後、町田市が担うべきと考える役割は何ですか。

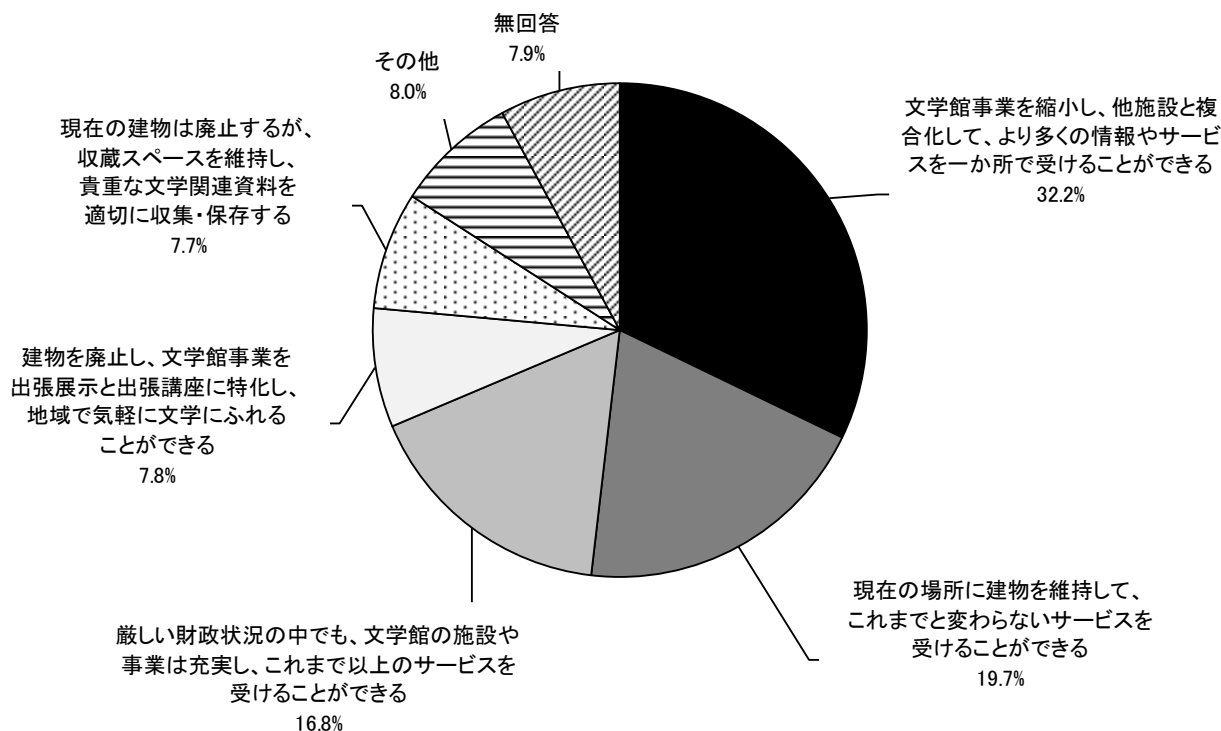


文化を継承するために今後町田市が担うべき役割については、「文化都市としての町田を内外にアピールし、市のイメージアップを図る」(39.2%)が最も多く、次いで「学校教育と連携し、子どもたちの国語力の向上に努める」(36.5%)、「作家の遺した原稿や書簡などを貴重な文化財として収集・保存し、将来の研究や市民の学習に役立てる」の順に多くなっている。一方、「特に担うべきと考えることはない」(9.9%)と回答した人は1割弱となっている。

◆町田市民文学館の施設の見直しを進める上で、あなたが最も重要と考えることは何ですか。

図 町田市民文学館の施設見直しで最も重要と考えること

回答者数
1,106



市民文学館の見直しで重要と考えることについては、事業を縮小しての他施設と複合化（32.2%）が最も多かったが、現状維持（19.7%）や施設や事業の充実（16.8%）も多い。

性・年齢別に見ると、20代男性では現状維持と施設・事業の充実が、20代女性と40代女性では現状維持が最も多く、他の世代では、事業を縮小しての他施設と複合化が多くなっている。

居住地域別では、回答の傾向に大きな差異は見られず、全地域において概ね、事業を縮小しての他施設と複合化、現状維持、施設や事業の充実の順に多くなっている。

市民文学館を利用したことがある人は、現状維持（37.6）が多く、利用したことがない人・知らない人は、事業を縮小しての他施設と複合化（37.3%・29.3%）が多くなっている。

その他（自由記述）では、「市民文学館を知らないのわからない」が多かった。また、広報活動の充実、図書館との統合、施設の廃止などの意見が見られた。